号外！

洞爺湖有珠山ジオパーク通信

2013年10月発行

今から４年前の２００９年、洞爺湖有珠山ジオパークは日本初の世界ジオパークとして認定されました。

世界ジオパークには、４年に１度再審査が義務付けられており、きちんとジオサイト（見どころ）を保全しているか、ジオパークとして活動しているか等が厳しくチェックされます。

洞爺湖有珠山ジオパークは、今年７月に現地審査を受け、９月９日のアジア大会で正式に世界ジオパークとして再認定されました。

（写真）アジア太平洋ジオパークネットワーク大会での結果発表の様子

評価されたポイント

○ ジオパークには、正しい知識や情報を多くの人に伝えるために、専門家や研究機関からの支援が必要。　洞爺湖有珠山ジオパークは、とてもしっかりした支援をうけている。

○ 洞爺湖有珠火山マイスター制度は、地域の住民とジオパークをつなぐ、とてもよい取組み。

○ ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）や、世界ジオパークネットワークでは、津波や地震、噴火災害などに対して教育活動が必要だと考えている。洞爺湖有珠山ジオパークでは、噴火災害の遺構を見学できるようにしてあり、また、そこでガイドする人たちも活発に活動している。他のジオパークの参考になるだろう。

○ 地元でとれる農産物や魚介類を「大地の恵み」としてPRし、経済活動につなげて行こうとする試みは非常に良い。

私たちが暮らす洞爺湖有珠山ジオパークは、火山の活動から地球のことや、人間が生活するための工夫を学べる地域。

この魅力を、もっともっとたくさんの人に伝えられるよう、これからもがんばらなくっちゃ！

Q. ジオパークって、他にもあるの？

A.　はい、あります！

世界ジオパークネットワークに加盟している世界ランクのジオパークは、なんと 29 ヵ国、100 地域もあります！（2013 年 10 月現在）。また、このほかに、世界ランクではないけれど、各国の基準を満たしていて、ジオパークとして活動している地域があります。

日本ジオパークネットワークには、現在 25 地域が加盟。日本全国の市町村の約 10%がジオパークに加わっていることになります。

ジオパークという取り組みは、どんどん広がっているんですね。

北海道には、洞爺湖有珠山地域の他に、「アポイ岳」「白滝」「三笠」ジオパークがあるほか、これからジオパークを目指している「とかち・鹿追」「中頓別」地域もあります。

アポイ岳ジオパーク

（様似町）

通常、地表から数 10km 内部にある「かんらん岩」が、地殻プレートの衝突によって地上に押し上げられ、アポイ岳を形づくりました。かんらん岩は特殊な岩石のため、アポイ岳は植物の固有種が多く「花の山」としても有名です。

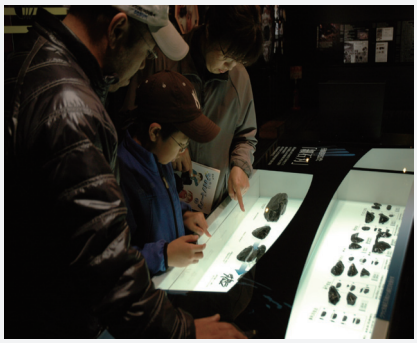
写真のジオサイト（見どころ）は様似漁港の東側、エンルム岬。サマニヨモギという植物が発見された場所でもあります。

白滝ジオパーク

（遠軽町）

約 200 万年前の火山活動によって生まれた天然のガラス「黒曜石」。約 2 万年前の旧石器時代に生きた人々は、この黒曜石から切れ味の鋭いナイフや、矢じり等の生活に必要な道具を作っていました。

遠軽町埋蔵文化センターでは、旧石器時代の遺跡群から発見された数々の石器を見ることができます。自然と人間の歴史が学べるジオパークです。



三笠ジオパーク

（三笠市）

アンモナイトが生息していた約 1 億年前の地層からは、長い時間をかけて変化・進化した多様なアンモナイトの化石が発見されています。また 5000 万年前の地層からは石灰が採掘され、産業の発展につながりました。石炭採掘のため大正 8 年に作られた、北海道最古の「立坑やぐら」が保存されています。かつては地下 200mの深さまで、人や物資を運びました。

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会

〒049-5692　北海道洞爺湖町栄町 58 番地洞爺湖町役場内TEL（0142）74-3015